



薬剤師のチカラ

ワクチン接種・飲み薬にも薬剤師の知見

ワクチン接種会場での支援や、接種者の悩み相談、自宅療養サポート、抗原検査キット販売、そして経口薬の供給へ。新型コロナウイルス感染症拡大防止に日本中が力を尽くす医療の場には、奔走する薬剤師の姿もあった。「今こそ地域のかかりつけ薬剤師・薬局の出番」と語る、日本薬剤師会・山本信夫会長に話を聞いた。

ワクチン接種急伸の舞台裏 薬剤師・薬局のサポートあり

日本で新型コロナウイルスワクチンの2回接種率が7割を超えたのは、昨年10月26日だった。海外では接種率が6割を超えると伸び悩み「7割の壁」に阻まれる中、予想を上回る順調ぶりで先進7カ国のトップレベルに躍り出た。

その陰に地域の医療従事者や自治体の努力があったの言うまでもなく、薬剤師もまた医療人の一員として重要な役割を果たしていた。日本薬剤師会の山本信夫会長はこう振り返る。

「集団接種会場では予診前に薬剤師が来場者の相談に応じたり、見えないところでワクチンの希釈や注射器への充填といった調製をしたりと、医師や看護師と協力して円滑に接種が進むよう努めていました。会場での混乱をできるだけ避けるため、町の薬局でも予診票の書き方や、服用中の薬に関する情報の聞き取り、ワクチンに対する不安や質問への対応など、それぞれの地域で力を尽くしていたと思います。」

接種後にはもちろん、体調に変わりはないかの確認や、副反応が疑われる場合は受診のすすめや服薬指導もありますし、かかりつけ薬剤師・薬局の役割、大切さといったことが、図らずも浮き彫りになったように感じています」

薬剤師による予診票の記入サポートは重要だ。不整脈や血栓症の治療薬である抗凝固薬を服用していると、ワクチン接種後に出血が止まりにくくなることもある。薬剤や食品によるアレルギー症の既往歴がある場合も要注意。そうした治療中の情報を書く欄が予診票にはあるが、多くの病歴・薬歴がある人や高齢者などは戸惑いがちで、事前に薬剤師と相談していれば接種会場での問診時間の短縮にもつながる。

そのため、各地の薬剤師会では医師会や行政と連携し、接種前の相談や情報提供に力を入れた。福岡県では昨年4月1日、ワクチン専用ダイヤルを開設。薬剤師が24時間体制で常駐し、5月下旬までに約8000件の電話相談に対応した。医療従事者からの問い合わせもあったという。茨城県ひたちなか市では「お薬確認書」

を無料で発行。予診内容に関する情報を薬剤師が前もって確認するサービスを提供した。

「かかりつけ」の本領発揮 医師や行政と地域で連携

かかりつけ薬剤師・薬局は、自宅療養・宿泊療養を余儀なくされた人々の味方でもある。政府は昨年4月、感染拡大防止を目的とする限定的・特例的な措置として、電話等による診療、服薬指導を可能とした。これにより患者が外出することなく、処方箋は医療機関から薬局へファクシミリ等で直送され、薬剤師も郵送や訪問などの手段で薬剤を渡すことが可能になった。

「ただし、服用期間中は電話などで服薬状況や副作用について確認し、それでは難しいと判断されれば速やかに対面に切り替えなくてはなりません。患者さんのお住まいを訪れば薬剤師にも感染リスクが及びます。それでも、通常業務を続けながら万全の感染対策を取り、可能な限りの手段を講じてコロナと向きあった経験は、今後のかかりつけ薬剤師・薬局のあり方を考えるうえでも大きな糧となるはずだ」

特例対応は他にもあり、医師が診断用に使った医療用抗原検査キットの薬局での販売も可能になった。薬剤師には使い方や判定後の対応について販売時に正しく伝える責務があり、その後のフォローや医療機関との連携により、適切な受診につながる役割が求められている。

厚生労働省と消費者庁は、ネットでも市販される「研究用」の抗原検査キットではなく、国が承認した「体外診断用医薬品」を購入するよう注意を促す。「そうした説



illustration: ワタナベモトム



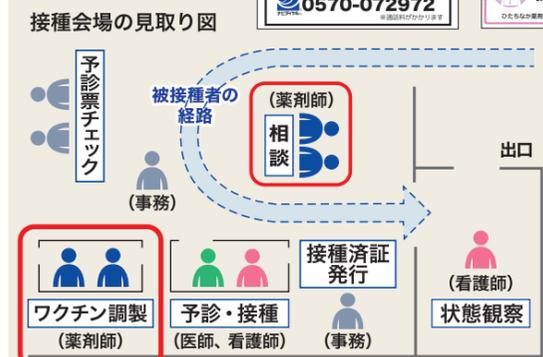
集団接種会場での新型コロナウイルスワクチンの調製を行う薬剤師（神奈川県鎌倉市）。

福岡県・福岡県薬剤師会
新型コロナウイルス
ワクチン専用ダイヤル

○ワクチンの副反応に関するご相談
○ワクチンの有効性・安全性に関する情報提供
○副反応発生時の対応に関するアドバイス
○ワクチンの保管・管理に関する情報提供
※このダイヤルは24時間対応です。

【受付時間】
9:00～21:00 (12/20より)
※11月3日～12月19日までは24時間
（土日・祝日も対応）

0570-072972



ワクチン集団接種会場では薬剤師もさまざまな支援活動に加わった（広島県広島市の例）。



日本薬剤師会 山本信夫会長

新年を迎えてオミクロン株による感染急拡大が進む中、昨年末に特例承認が下りた経口薬への期待も高まる。政府は患者が足を運ばずに薬を入手できる環境づくりをさらに進める構えだが、当面は供給量が限られる可能性もある。いかに早く適切に届けるか、薬局を含む医療関係者と行政との調整、体制づくりが急がれる。

その一方、感染リスクを低減しながら行動制限の緩和を目指す「ワクチン・検査パッケージ制度」を利用した、無症状者に対するPCR・抗原検査の無料事業も動き出しており、薬剤師・薬局の役割は増している。さらには、ワクチン3回目接種に伴う支援活動も始まった。

「ご自身や大事な人の安全・安心のために、今こそかかりつけ薬剤師・薬局を活用するときです。対面でも電話でもオンラインでもいい、ぜひ気軽に私たちに相談してください」

